

【就労事例部門】

MIP賞 NECグループ視覚障がい社員コミュニティ

社内コミュニティが果たす役割の模索と 業務スキル開発プログラムの実践

社内コミュニティを結成してから8年が経ちました。その間、ITスキル勉強会や上司との対話会等を企画し、視覚障がい社員の職場環境の向上に努めてきましたが、根本的な課題解消には至っていませんでした。

そこで、2022年に人事部門の協力もいただきながら、筑波技術大学 保健科学部教授の竹下 浩氏が考案した”視覚障がい者の就労スキル開発プログラム”を活用することにしました。このプログラムは、視覚障がい社員とその上司や同僚がお互いに気づきを得られるコミュニケーションプログラムです。

2022年は1名の視覚障がい社員が参加しました。このプログラムを通じて互いの心理的バリアが解消し、業務を依頼されることが多くなるだけでなく、チーム内外に活躍の場が広がりました。

この年度末にはその成果報告会をオンラインで開催しました。約80名の一般社員が視聴し、関心と期待の高さを感じました。

2023年は、2名の視覚障がい社員がこのプログラムに参加します。

私達の活動は同じグループ社員だからこそ話せる話題が多くあり、社内コミュニティの意義は大きいと考えています。今後も社内コミュニティの認知向上や仲間づくりを通じて、一人でも多くの視覚障がい社員がスキルやポテンシャルを発揮できるよう、様々なことにチャレンジしていきたいと考えています。

審査員コメント

全国のグループ企業に広がるコミュニティづくり、外部プログラムの活用、定期的な会議や対話会の開催など、同じ会社で働く視覚障害者同士がつながることは、継続就労・就労定着にも寄与する、大変意義深い取り組みだと感じました。みなさんが社内で生き生きと活躍されることで、新たな視覚障害者雇用が生まれ出されることも期待できる好事例だと思います。



NECグループ視覚障がい社員コミュニティ

NECグループ各社に勤務する視覚障がい社員の職場環境の課題解決を目的に、2015年より横断的な社内コミュニティを結成しました。このコミュニティでは、月1回のオンラインミーティングとグループチャットを通じた情報交換を中心に、業務システムの操作方法の共有から業務遂行や人間関係の悩み相談まで行っています。